

江中

「共走」

校長 大地本央仁

体育祭を通じて育む「ウェルビーイング」 ～共に走り、認め合い、高め合う江中生～

本年度、本校では「ウェルビーイング（心身ともに健康で、満たされた状態）」を学校全体のスローガンとして掲げ、様々な取り組みを進めております。ウェルビーイングを実現するうえで私たちが特に大切にしているのは、「一人ひとりの価値観の違いを受け入れること」そして「自分の考えや共有価値観を相手に押し付けないこと」です。生徒たちにも日頃から、自分と他者の違いを尊重し合い、誰もが安心して自分らしく過ごせる学校を目指そうと呼びかけています。

こうした理念が大きな形となって表れたのが、先日行われた体育祭でした。

今年度の体育祭スローガンは「共走 ～ぶちかませ江中旋風～」。今にも雨が降り出しそうな曇り空の下での開催となりましたが、グラウンドには生徒たちの弾ける笑顔と真剣な眼差し、そして響き渡る声援があふれていました。これまでの練習の成果を存分に発揮し、必死に自分自身や仲間との思いを表現する生徒たちの姿は、大変たくましく、観る者の心に深い感動を与えてくれました。

この体育祭という大きな行事を通じ、生徒たちには単に競技の勝敗に一喜一憂するだけでなく、次のような大切な学びを得てほしいと願っていました。

「共に走り、支え合う」協働の喜び

自分の全力を尽くすことはもちろん、思い通りにいかない時や苦しい時に仲間へ声をかけ、支え合う経験を通して、人と協働することの尊さと達成感を実感すること。

「違い」を力に変える互いの尊重

得意なこともあれば苦手なこともある一人ひとりが、それぞれの役割で全力を尽くし、お互いの多様性や努力を認め合うこと。自分の基準だけで他者を測るのではなく、多様な存在を受け入れる優しさと広さを持つこと。

「挑戦と成長」を通じた自己肯定感の向上

困難や緊張を乗り越えてやり遂げたという経験が、自分自身への自信となり、明日からの学校生活や将来の大きな糧となること。

仲間と共に汗を流し、互いを称え合い、誰一人取り残さずに最後まで走り抜けたプロセスそのものが、まさに本校のめざす「ウェルビーイング」の姿そのものでした。体育祭で巻き起こした熱い「江中旋風」と深まった絆を、今後の学校生活や合唱コンクールをはじめとする次の目標へと繋げていってくれることを心から期待しています。

少年の主張 江津市大会
～自らの経験と想いを堂々と表現～歩む一歩が成長を育む
～登下校の安全と地域への思いやり～

先日開催されました「少年の主張 江津市大会」において、本校を代表して2名の生徒が出演し、大勢の聴衆を前に自身の思いや経験を込めた素晴らしい発表を披露してくれました。

3年生 金山 知樹 さん

演題：「一生懸命続けることの大切さ」

日々の中で地道に努力を重ねることの意味や、挫折しそうになりながらも継続することによって見えてくる自身の成長について、実体験をもとに力強く語ってくれました。

1年生 右田 花穂 さん

演題：「言葉の壁をなくしたい」

誰もが自分の声で、自分らしく話せる世界になるまで発信し続けること。ひとつひとつの言葉に思いが詰まっていることを、公正公平な価値の視点で強く訴えかけました。

大舞台での緊張の中、自分の考えを自分の言葉で朗々と語る二人の姿は実に立派であり、聴く人の心に強く響くものでした。二人の挑戦と健闘を称えます。

先日PTA会長より登下校に関する連絡がございました。

平素より生徒の安全に対する意識や主体的に成長する姿に寄り添い、ご支援いただきありがとうございます。登下校の道のりは、子どもたちが自ら歩むことで体力を養い、仲間と絆を深める大切な成長の機会です。日頃より見守ってくださる地域の方々へ感謝の気持ちを持ち、公共のマナーを背中で示すことが私たち大人の役割でもあります。悪天候時や怪我等を除き、できる範囲で自力通学を後押ししていきましょう。やむを得ずお車で送迎される際は、校門前や近隣道路の混雑緩和のため、安全な校内駐車場でのスムーズな乗降にご協力をお願いいたします。